

1 学年及び単元名 第5学年 「 小数のかけ算 」

2 問題

次の8枚のカードのうち6枚を使って、
右の筆算が成り立つ式を作ります。

0 1 2 3 4 5 6 7

ただし、①と②の□には0を入れない
こととします。

また、同じカードは1枚ずつしか使えません。

(1) かけられる数が1.3の場合、上の筆算にあてはまる数を
求めましょう。

(2) かけられる数がどんな数でも、かける数が0.1と0.5になることはありません。
その理由を説明しましょう。

$$\begin{array}{r} \text{①} \square . \square \\ \times \square . \text{②} \square \\ \hline 0. \square \square \end{array}$$

3 ねらい及び活用のポイント

- ・ 小数のかけ算を計算練習だけにならず、自分から進んでいろいろな数字を入れて計算しようとする。
- ・ (1)では、1.3に1より大きい数字をかけると積が1.3より大きくなることから、かける数の一の位は0となることを筋道立てて考えられるようにする。また、いろいろな計算を通して出てきた積より、帰納的に考えることができるようにする。
- ・ 今までの学習から、1の段のきまりや5の段のきまりについてふれてきている。その学習経験から、かける数が、どうして0.1と0.5になることがない理由について考えさせる。さらに、根拠を明らかにしながら、思考過程を他の人に分かりやすく説明する力を付けていく。

4 考え方

(1) $1.3 \times 1 = 1.3$ だから、積が1よりは小さくならない。

だから、かける数の一の位は0となる。入る数字を計算すると、 $1.3 \times 0.2 = 0.26$ で2が重なるからできない。 $1.3 \times 0.4 = 0.52$ これはできる。 $1.3 \times 0.6 = 0.78$ 、8はカードがないのでできない。 $1.3 \times 0.7 = 0.91$ 、9はカードがないのでできない。

答え $1.3 \times 0.4 = 0.52$

(2)-1 どんな数にでも、0.1をかけると積はかけられる数のカードを使うことになるので、同じカードは使えないので、かける数が0.1になることはない。

また、どんな数にでも、0.5をかけると積の小数第二位には、0か5しか入らない。同じカードは使えないので、かける数が0.5になることはない。

(2)-2 いろいろ計算をしても、どの計算も同じカードを使うことになってしまうので、かける数が0.1や0.5になることはない。

問 題

小数のかけ算

次の8枚のカードのうち6枚を使って、
右の筆算が成り立つ式を作ります。

0 1 2 3 4 5 6 7

ただし、①と②の□には0を入れない
こととします。

また、同じカードは1枚ずつしか使えません。

$$\begin{array}{r}
 \text{①} \square . \square \\
 \times \square . \text{②} \square \\
 \hline
 0. \square \square
 \end{array}$$

(1) かけられる数が1.3の場合、上の筆算にあてはまる数を求めましょう。

計算スペース

答え

$$\begin{array}{r}
 \square . \square \\
 \times \square . \square \\
 \hline
 0. \square \square
 \end{array}$$

(2) かけられる数がどんな数でも、かける数が0.1と0.5になることはありません。

その理由を説明しましょう。